

2014.3.9

災害復興新生研究機構シンポジウム

「臨床宗教師」養成プログラムの 開発と社会実装

東北大学大学院文学研究科 教授

鈴木 岩 弓

(宗教民俗学・死生学)

iwayumi@m.tohoku.ac.jp

1. 東日本大震災と宗教

(1) 東日本大震災

最新被害状況（2014年2月10日警察庁調べ）

死者・・・・・・・・ 15,884人（宮城県：9,537人）

行方不明者・・ 2,636人（宮城県：1,283人）

宮城県の年間死亡者数の推移

死亡者数

35000

30000

25000

20000

15000

10000

5000

0

平成20年

平成21年

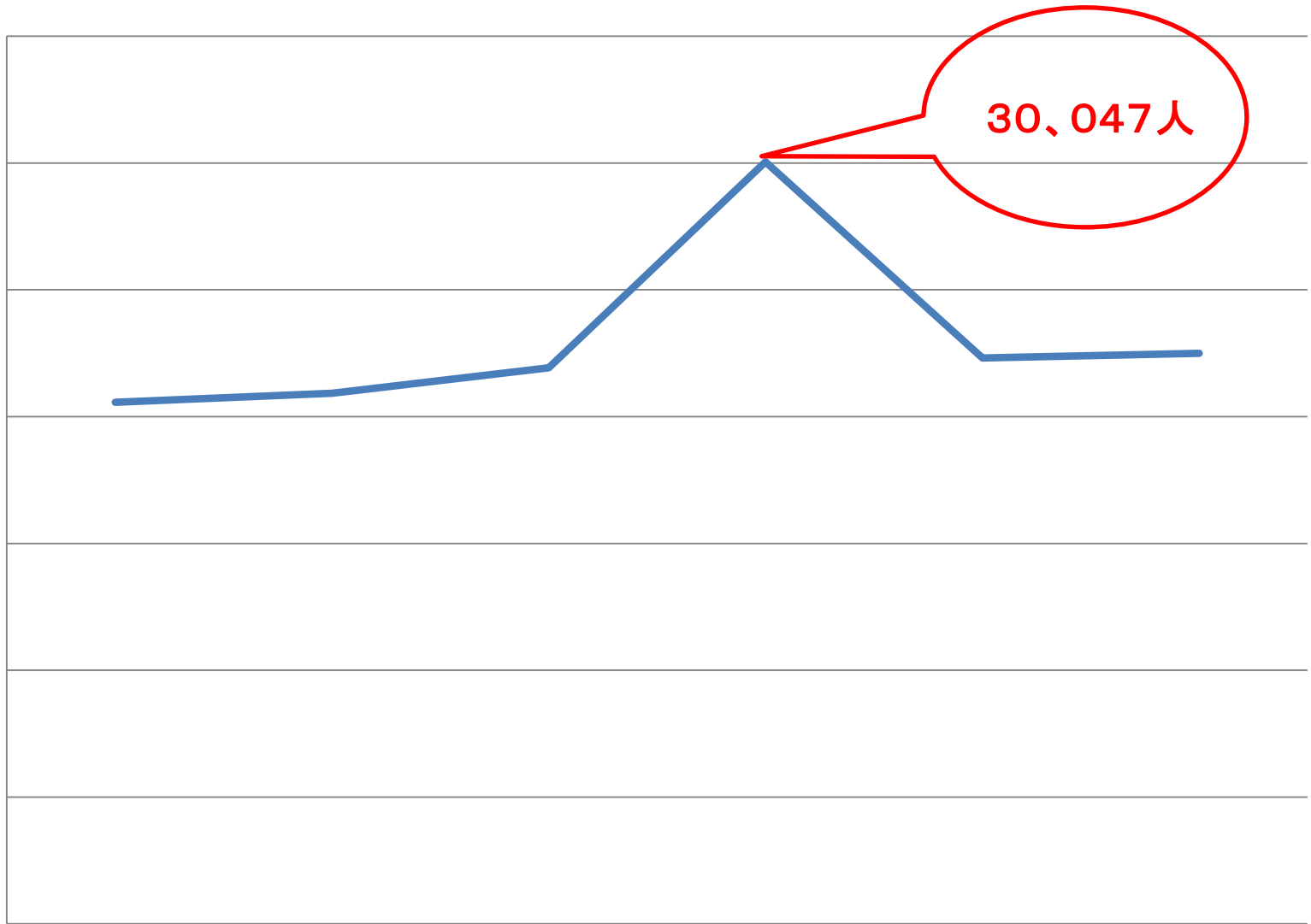
平成22年

平成23年

平成24年

平成25年

30,047人



(2) 震災に対する宗教者

▶ “突然の死” (sudden death)

cf. 入院後の衰弱死→「死」に対する準備可
「残された者」，「死に行く者」共に“悔い”

▶ 「宗教者」への役割期待

- ▷ 葬儀執行……死者の魂の救済
- ▷ 死者への“想い”に対する対応
- ▷ 「死」を見据えた心のケア

▶ 宗教者が自然発生的に始めた組織 仙台市では「心の相談室」



遺族の悲しみに寄り添おうと待機する
宮城県宗教法人連絡協の僧侶と牧師

葛岡斎場にて

『河北新報』2011.4.13

「心の相談室」の運営

事務局：東北大学文学研究科宗教学研究室

**人を救う「宗教者」を、
人を救えない「宗教学者」が支える。**

∴突き詰めると、宗教は価値

異宗派異教徒がまとまることは困難

⇒国立大学がバックアップ

- 宗教者が気分良く連帯
- 対外的に布教ではない宗教的ケアを担保

「心の相談室」の活動

①電話相談

②Café de Monk（傾聴移動喫茶）

③毎月身元不明者の合同慰霊祭 於：葛岡墓園

③FM放送「カフェデモンク」運営

④講演などの啓蒙活動



「心の相談室」の課題

浮上してきた問題

- ▶ 悲嘆にくれる被災者への対し方
異宗派・異教徒へのケア？
- ▶ 布教とならない宗教的なケアは可能か？
相手への寄り添いの方法

⇒問題解決のため、寄附講座の設置へ

2. 実践宗教学寄附講座の誕生

- 「心の相談室」の活動から専門職の必要性痛感
⇒超宗派超宗教的な「臨床宗教師」養成
「臨床宗教師」≡「チャプレン」、「ビハーラ僧」
- 資金提供：東北ディアコニア
WCRP(世界宗教者平和会議日本委員会)
- 設置目的：「臨床宗教師」養成に関わる研究・教育
- 設置期間：2012年4月から3年間

実践宗教学寄附講座の概要

- 教員 教授（兼任） 鈴木岩弓
准教授 高橋 原
准教授 谷山洋三

- 実践宗教学寄附講座運営委員会

学内三教員

岡部 健 （医）爽秋会理事長 （2012.9没）

川上直哉 （財）東北ディアコニア理事長

伊藤文雄 元ルーテル神学校教授

金田諦應 通大寺住職

井形英絵 南光台教会牧師

佐藤央千 竹駒神社権禰宜

小西達也 （医）爽秋会チャプレン

金沢 豊 浄土真宗本願寺派総合研究所研究員

篠原祥哲 (公財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員
会仙台事務所所長

櫻井恭仁 心の相談室理事（会計担当）

ホームページ：<http://www.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/top.html>

実践宗教学寄附講座設立趣旨文

実践宗教学寄附講座は、2011年3月の東日本大震災以来、被災者の心のケアのために地元の宗教者、医療者、研究者が連携して行なってきた「心の相談室」の活動を踏まえて設立されたものです。

今回、東北の被災地では、宗教者による支援活動が活発に行われました。**それぞれの宗教の立場をこえて連携**し、支援活動が行われてきたことが一つの要因であると考えられます。その上で、**さまざまな信仰を持つ人々の宗教的ニーズに適切にこたえることのできる人材が必要**なのではないかという洞察が生まれました。この講座は、そのような専門職（仮に「臨床宗教師」と呼んでいます）の育成を行うために、地元の宗教界などの支援を受けて設立されました。

講座の設置期限はさしあたり3年間で、基礎研究を行ないながら研修プログラムを作成し、「臨床宗教師」の育成を目指しています。

実践宗教学寄附講座の研究内容

①これまでの試みの検証・・・・・・・・・・・・・・・・理論

ex. ・ 聖公会による臨床牧会訓練（1967年～）

・ 宗門大学における試み

・ 海外の試み ex.軍隊チャプレン

②「臨床宗教師」研修のフォーマット造り・・・・・・・・実践 宗教者に対する超宗派超宗教的な訓練

基盤：伝統的な宗教文化に対する理解

ex.先祖祭祀・・・・・・・・先祖の“崇り”

寺・神社の他にミコへの関わり

.....

実践宗教学寄附講座の活動内容

①東北大学学生・院生に対する授業の実施

＊専攻学生はとらない ∴有期限講座

②宗教者に対する「臨床宗教師」研修の実施

- ・ 5月から5回目の「臨床宗教師」研修
- ・ これまでの修了生→57名
 仏教・キリスト教・神社神道・教派神道・新宗教・ムスリム
- ・ 北海道から九州まで全国から
- ・ 修了生には講座から「認定証」

3. 「臨床宗教師」普及への道

(1) 「臨床宗教師」の理念

- 「臨床宗教師」

公共的な役割を果たす「宗教的ケア」の専門家

cf.多くの日本の宗教者はメンバーとのみ対峙

日本版チャプレン

但し、宗教色を持った既存の用語は避ける

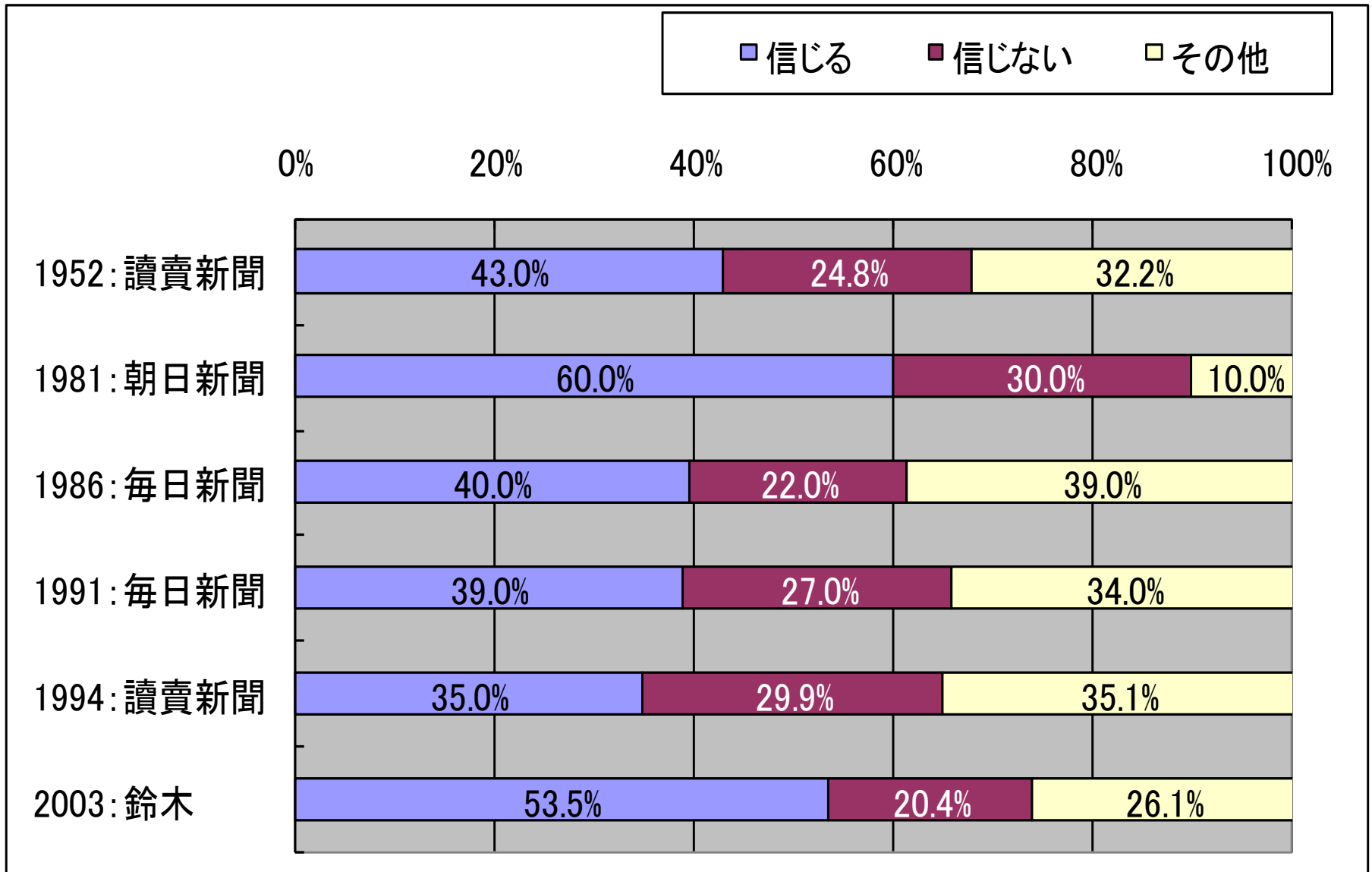
⇒「臨床宗教師」の語を造語

- 目的：「死」に纏わる心のケア

精神科医・臨床心理士では難しい領域

∴死後世界を語れるのは宗教者

死後靈魂の存在



(2) 「臨床宗教師」 研修

目標

① 「傾聴」と「スピリチュアルケア」の能力向上

cf. WHOで「健康」に関する議論

physical, mental, spiritual and social well-being

② 「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上

③ 宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ

④ 幅広い「宗教的ケア」の提供方法を学ぶ

研修内容

1. 事前学習

- ①参加動機 1,000字程度
- ②生育歴 5,000字程度
- ③人生観 800字程度
- ④課題学習 担当者の指示に従う。

研修内容

1. 事前学習

2. 実習 Café de Monk（傾聴移動喫茶）
 電話相談
 仙台食品放射能計測所

3. 講義

4. グループワーク



鎮魂行脚：石巻（森田敬史撮影）



仮設集会所でのCafé de Monk

講義 (森田敬史撮影)



グループワーク

(実習振り返り, 悲嘆, ロールプレイ, 会話記録)

(森田敬史撮影)



日常儀礼

(森田敬史撮影)



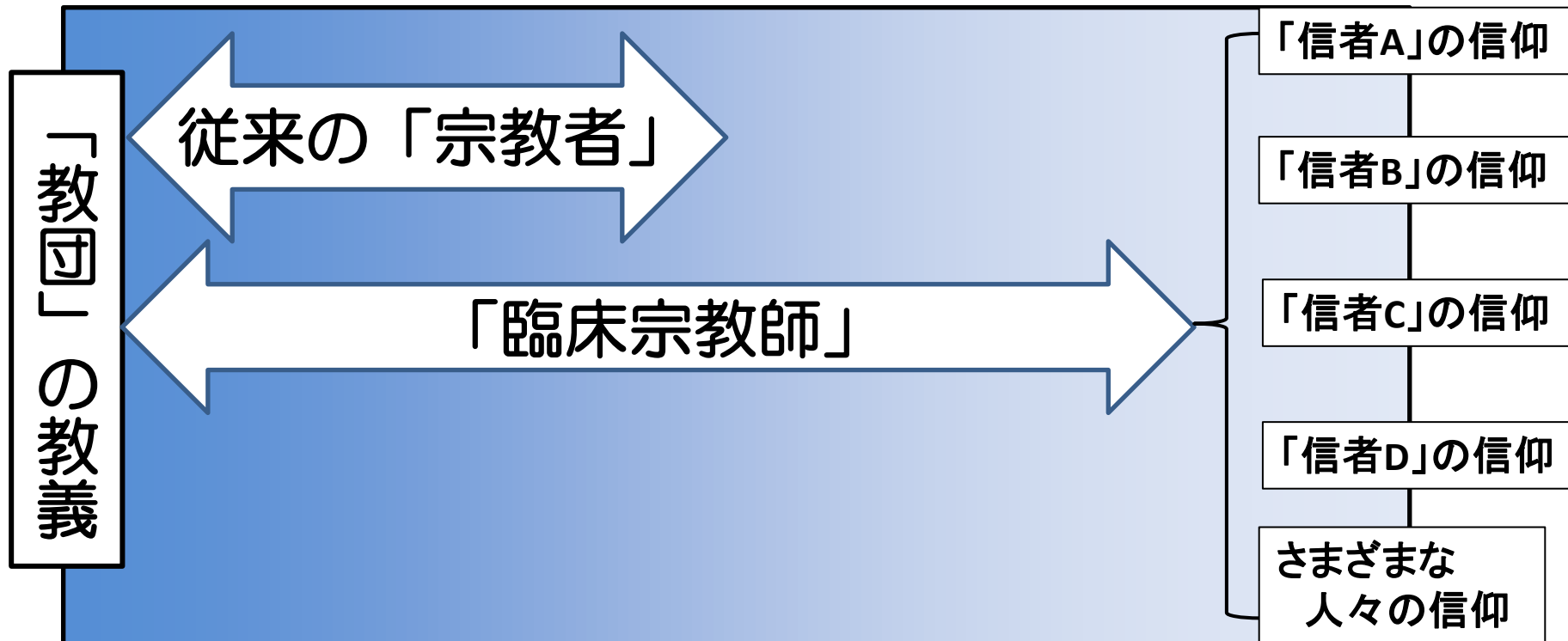
「臨床宗教師」による心のケア

- 大前提：心のケアは宗教者以外も可能
ex.医師，臨床心理士，……⇒連携する必要性
- 「臨床宗教師」（＝宗教者）の特質
死後世界を語るメッセンジャー
cf.世界宗教＝「現世拒否」の思想
⇒スピリチュアルな側面からの心のケア
- 「宗教者」ではなく「臨床宗教師」である必要
現場のニーズは多様な宗派・宗教
→超宗派超宗教的な宗教的ケアへの対応

教義的規制力

大

小



信仰現場にみる「宗教者」と「臨床宗教師」

4. これからの「臨床宗教師」

現代日本の宗教状勢

- 仏壇所持・神棚所持→共に過半数を割る
⇒世俗化、宗教離れ “イエスの宗教” 意識希薄化
- 震災を契機に宗教の公共的活動が表面化
→これまでの宗教状況に風穴？
- 「臨床宗教師」＝「宗教の公共性」を問う好機
超高齢多死社会へ向けた高度専門職業人

「臨床宗教師」の提言に対する反応

①各宗教団体、宗教団体連合から

- 鈴木が「臨床宗教師」について講演
日蓮宗、曹洞宗、真宗大谷派、真言宗智山派、
WCRP（世界宗教者平和会議）、真言宗御室派、
世界連邦、教派神道連合会、国際宗教同志会、
新日本宗教団体連合会
- WCRPはじめ、超宗派超宗教的団体からご寄附
- さまざまな宗派宗教の宗教者からご寄附
- 全日本仏教会から推薦
- 日本宗教連合会から後援

「臨床宗教師」の提言に対する反応

②マスコミ各社が好意的な記事を多数取材

新聞

テレビ

ラジオ

雑誌

⇒マスコミ関係者が必要性を認識

「臨床宗教師」の提言に対する反応

③宗門大学内でも養成コース設置

- 龍谷大学大学院実践真宗学研究科
4月から「臨床宗教師」養成
東北大の「臨床宗教師」構想を参考に
- 他にも複数の宗門大学から問い合わせ

「臨床宗教師」設置の意義

震災を契機に

他者の死、自己の死を見つめる人多く

わが国は、「超高齢多死社会」

⇒全国の病院（緩和ケア病棟）、介護施設に、一人は「臨床宗教師」が常駐して、希望者とお話してできる社会の到来を期待。

宗教は両刃の刃

しかし宗教本来の救済の力を超宗派超宗教的に実現する場が必要

「臨床宗教師」の社会的定着

⇒東北大学実践宗教学講座からの提言